



函 15
號 28

3685

叙の
...

幸田成友

叙

入 叙
...

受納式

妓うみ負たをめれま錦び真書
あくくくくくくくくくくくく
笥を携へ出るありま投壺ハ古聖人
取れりまあ〜郷黨よ用ひ邦國よ
用ひ射れと吳あ〜今や新
是を撰〜て投扇と題寸席上
〜て武藝野の月をあら〜芳野

乃冠を撰り不二の根れ雪を
凡の嬌く〜翠篋の向乃清婉垣
向見の幽雅從容宴安たあ〜
れゆつ〜見がまを〜て懐入編書
次子屋漏〜馬ちあ〜の蝶由
き〜い〜く〜あ〜まあ〜
新〜借貴〜あ〜あ〜也

投扇式序

うまみきゆる所代のききめ〜あ〜き
のし〜き

文化のりか井陸

珍く居士識

儀節

○如國席と又毛氈けいせんを敷いた基と正申ただまをと
より扇にたけを隔へだて双方又射座たひざして一方は
青黄赤白黒れ又久とまうらたる扇又幸々如
國ならぬぞ〜

○双方座きいより希後の礼式ありて先のみまぐま
き扇あしをとりらき要もとめれを大指と人差指
とてめく持向ふさぐりみも出〜正基と目

礼節

あて
あましして和らうよるぶるかり其の時側より刺せあつて
投ちりたるは扇は縁は縁又見合点のまを縁を
まうつを

○扱又後乃一方も扱はどくまき扇よりひらき
扱を〜如此青黄赤白黒とまくよ一扱づ
扱おひれば双方うそ十品は縁をさだむ是を
優劣は一順とを
○執事乃式

投扇之記

青 黄 赤 白 黒

表月何良
垣岡足徳良

後茶

茶
後
備名或の
別号と苑

投扇式序

茶 何十良
後 何十良

○如此執筆して一順此点と双方引くらへ優劣を
又くらむるありあつひを座席に真又茶一と点數の
優劣又よつて酒盃を用りも又真あるを一
於其余と座との作意又何とぞ



及扇文字

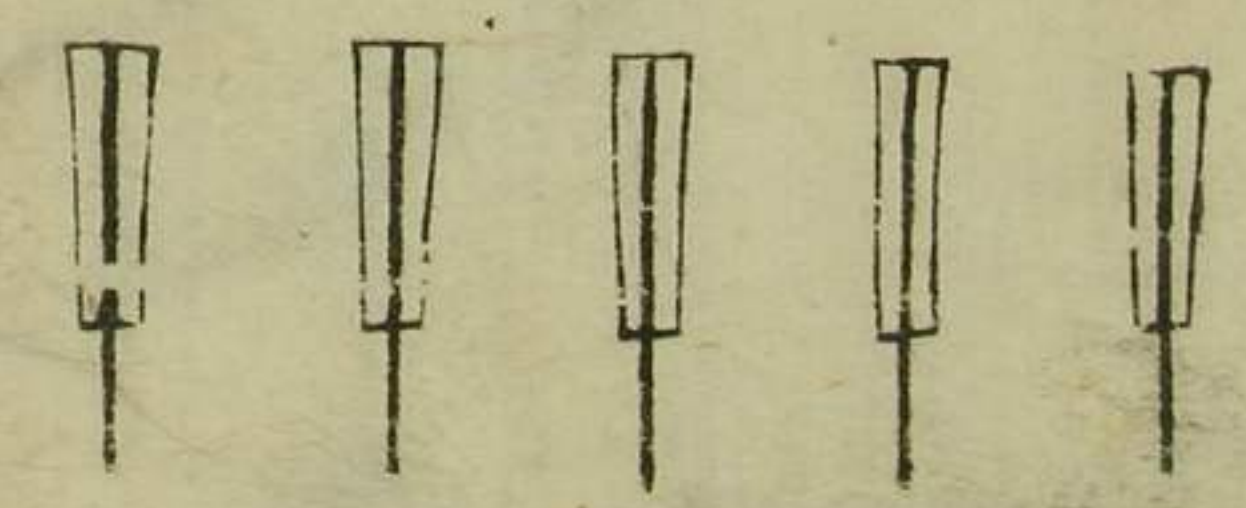
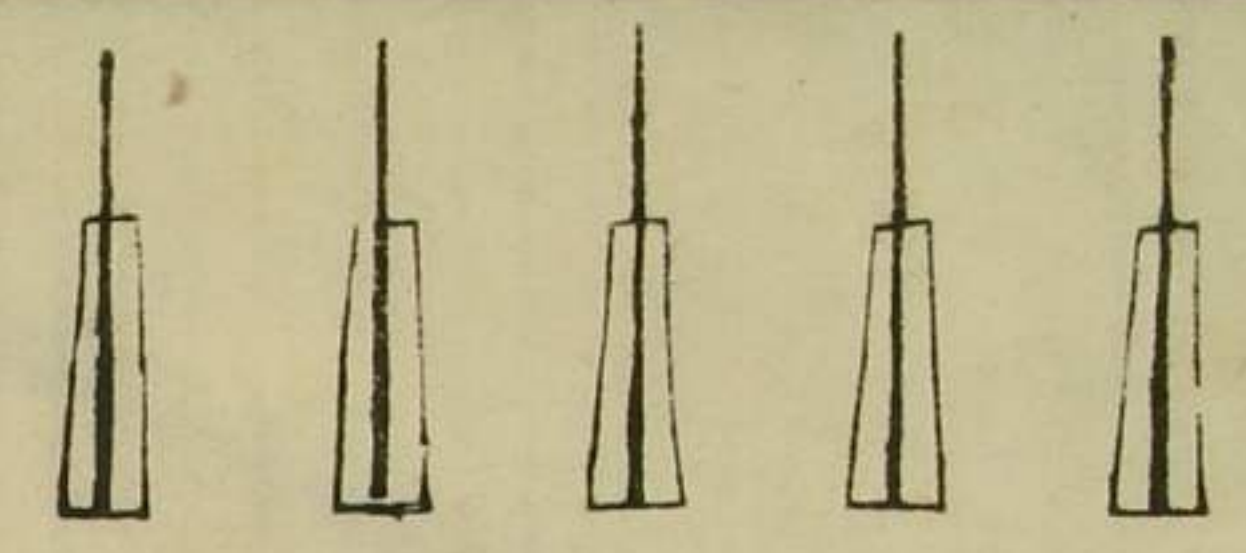
○十雨五風率可卜



○千金一刻賈寧餘



設席圖



上 風巻

花巻とまらて
して花巻と
かつる



下 風巻

花巻とまらて
して花巻と
かつる

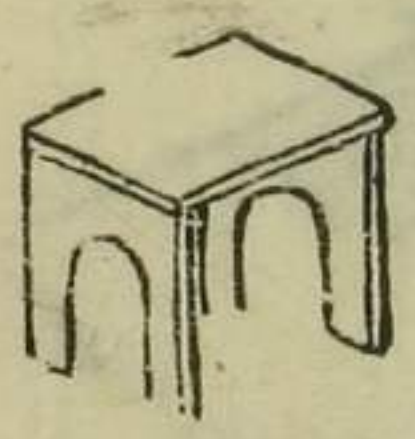
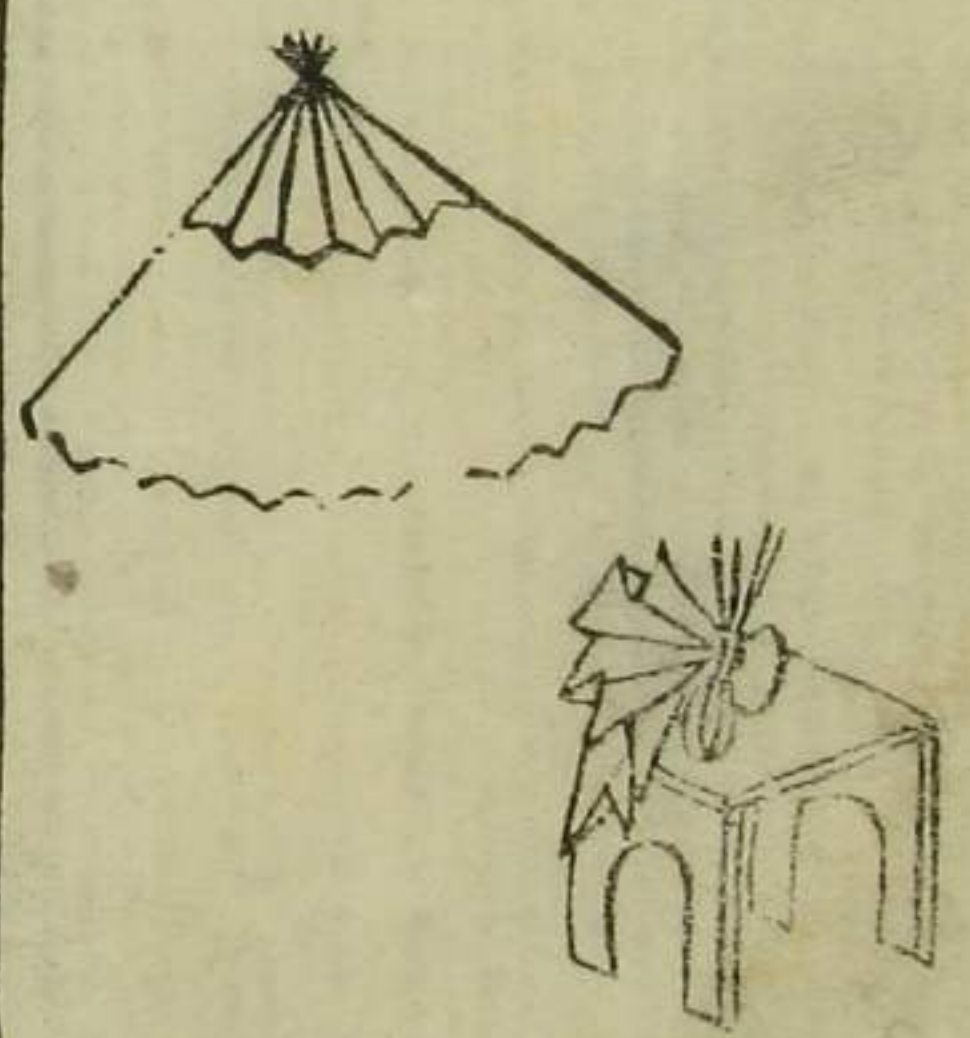
図右と同一

山 風 入 長

花と撰よして
あゝぎむうへ
とらたるを

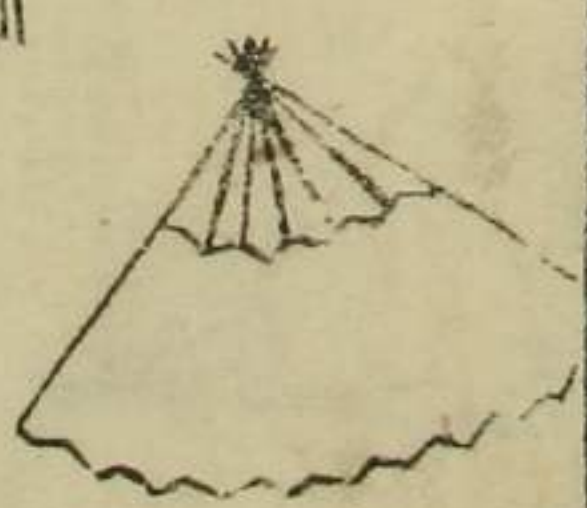
理 分 六 長

花もあゝぎも
をくさつたるを



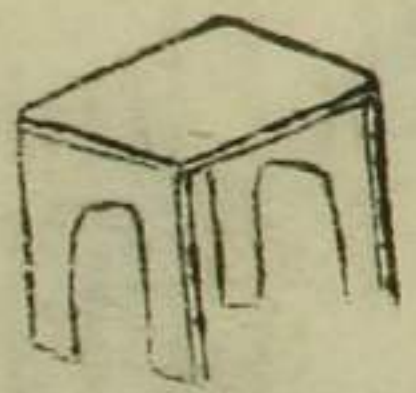
鴨 立 澤 七 長

花のむうへ落
あゝぎもあゝぎも



二 足 の 浦 六 長

花もあゝぎも
を名へからたるを



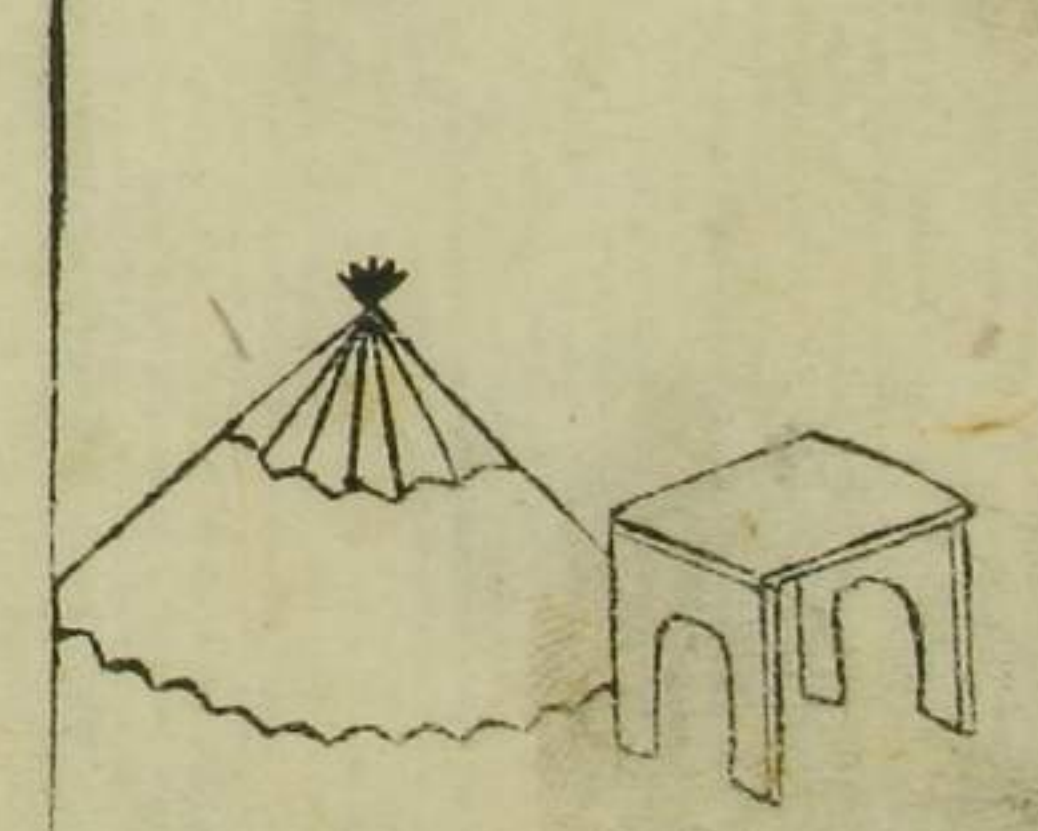
掛扇式

三時風 九景

扇はさるるを
かきこころを

横雲 十景

花とよこけりて
あまぎと並ぶ
ころを



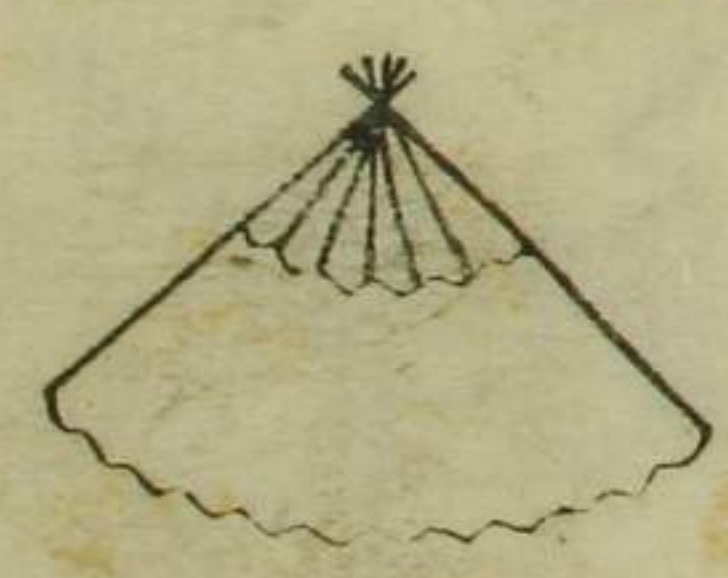
夕景 十景

あまをぬくま
花あつころを



富士乃報 十景

春もあまをこ
りくを

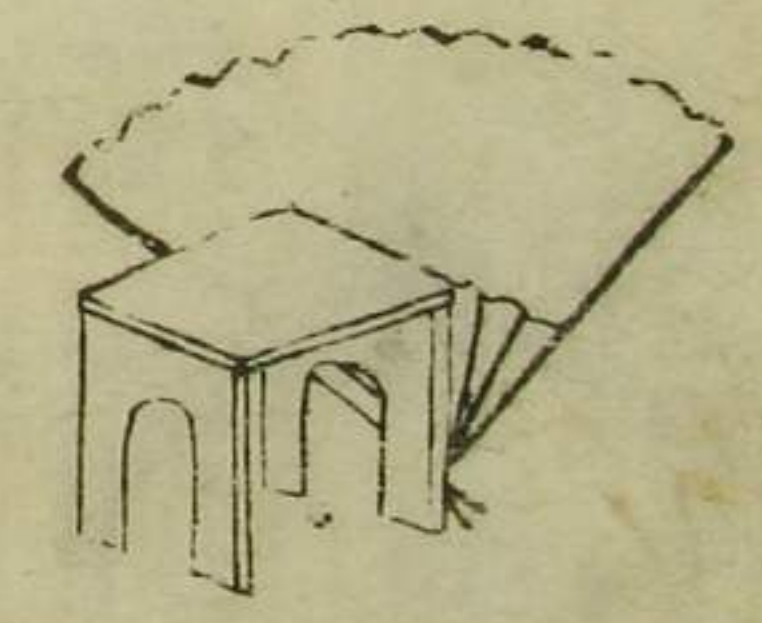


段扇式

井上御座

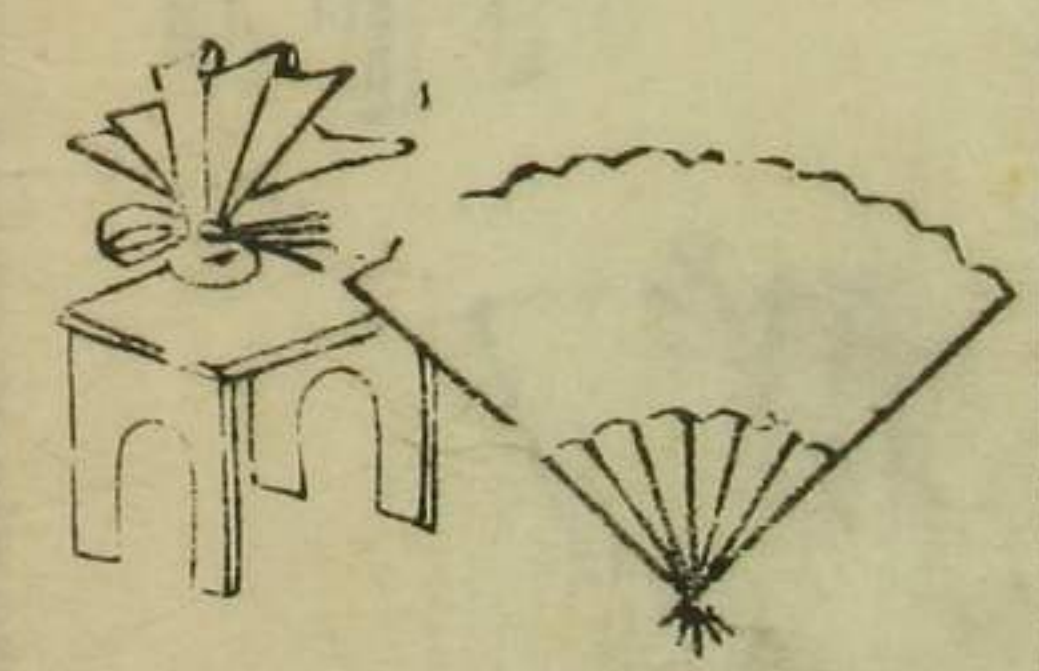
水田糸十九豆

あふぎむら
まうたを



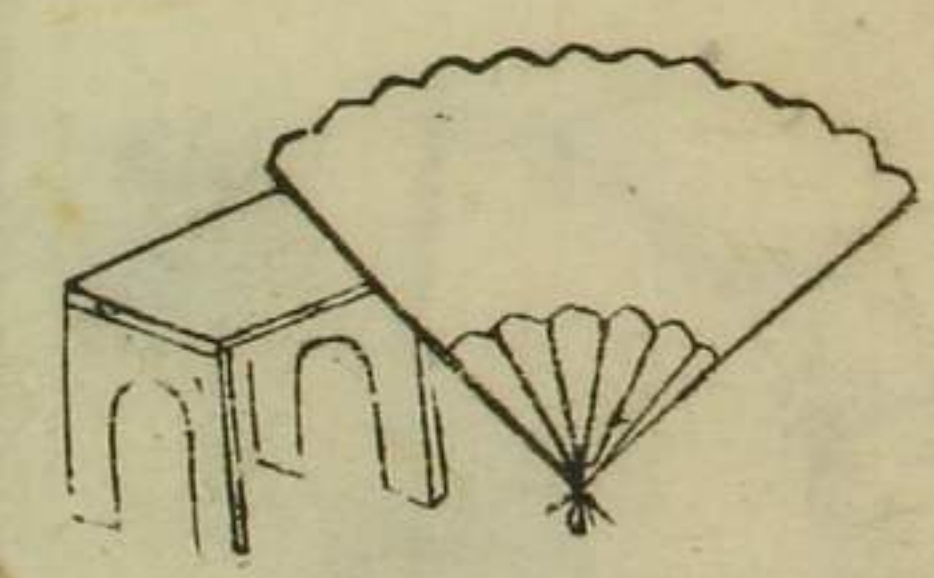
河あまのが糸

あふぎむら
してあつたを



浦糸とまや

あふぎむら
あつたを
たる糸



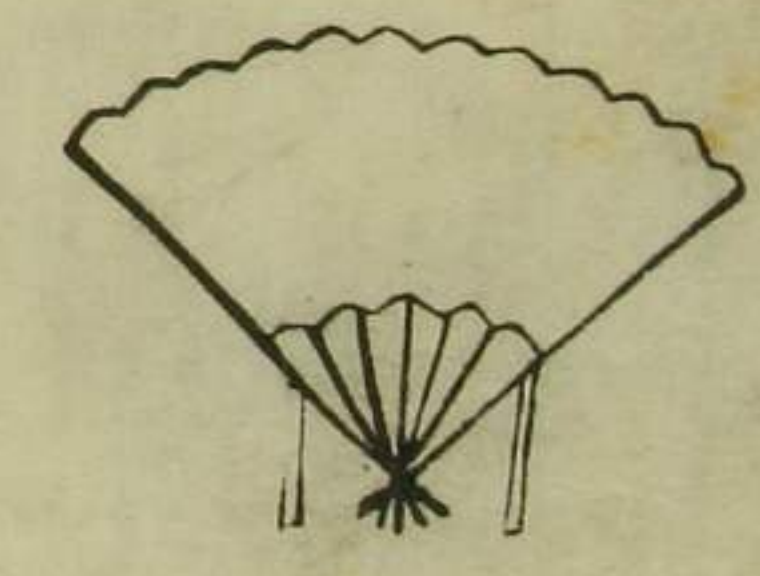
安糸サニ豆

あふぎむら
あつたを



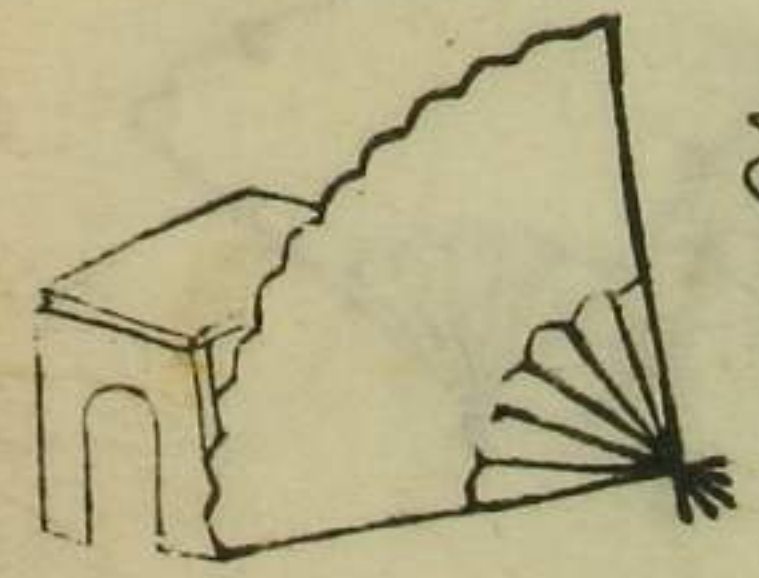
朝日教 サス良

たふじふへ
とつるぬ



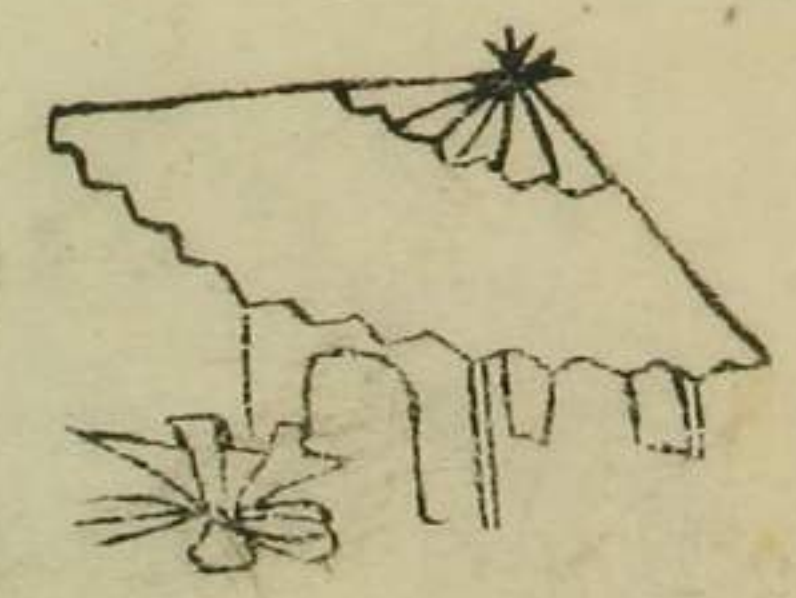
透恒 サス良

たふじふへ
おはるぬ



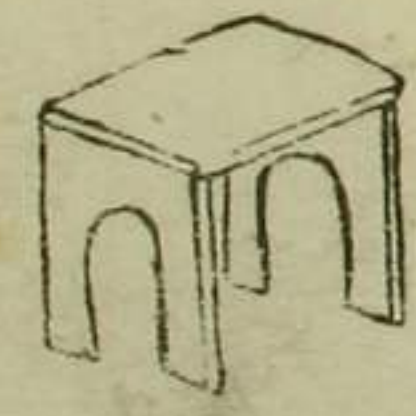
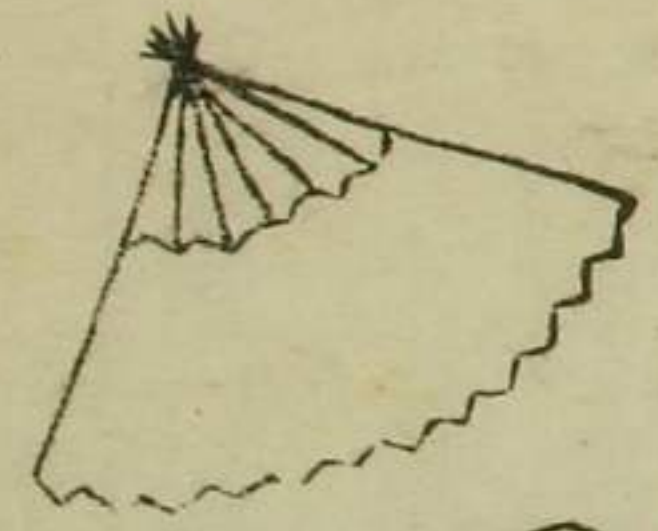
甲乙女 サス良

あふぎとふのり
其のくまあるぬ



神風 サス良

あふぎとふのり
其のくまあるぬ

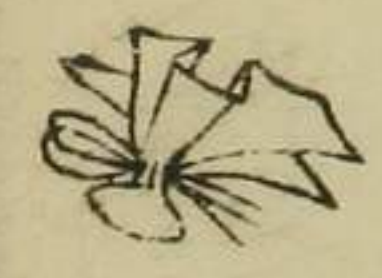
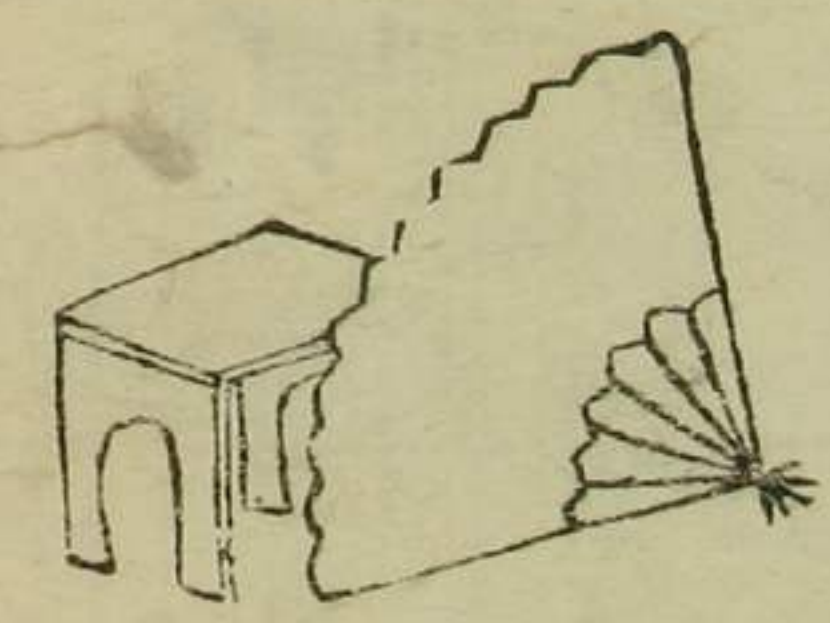


花車 三十七良

たれよこよかり
解甚まうらたか

破 花車 三十五良

花むくへんせら
あふごまきへんせ
らむら

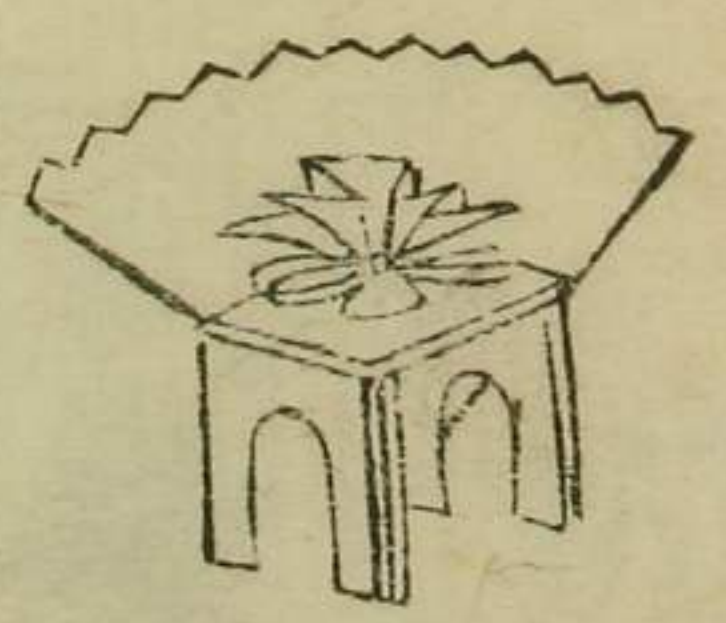


武彦殿 四十良

あふごむくへん斜
又たらかりたせ

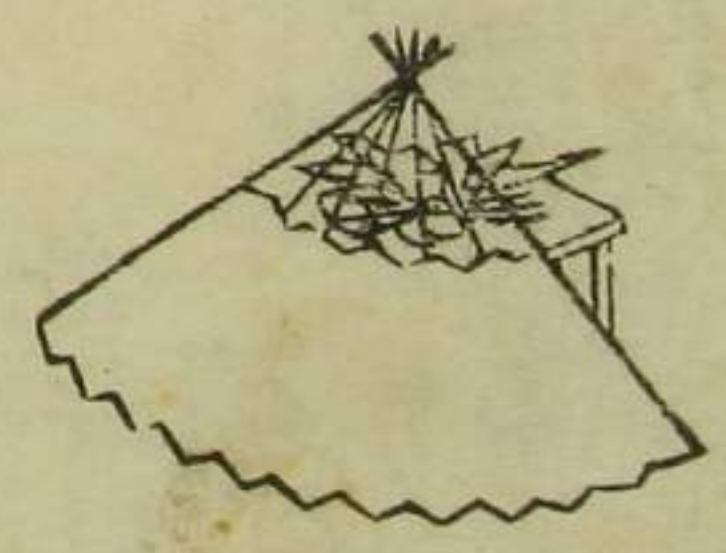
夕月殿 四十良

たれよまき



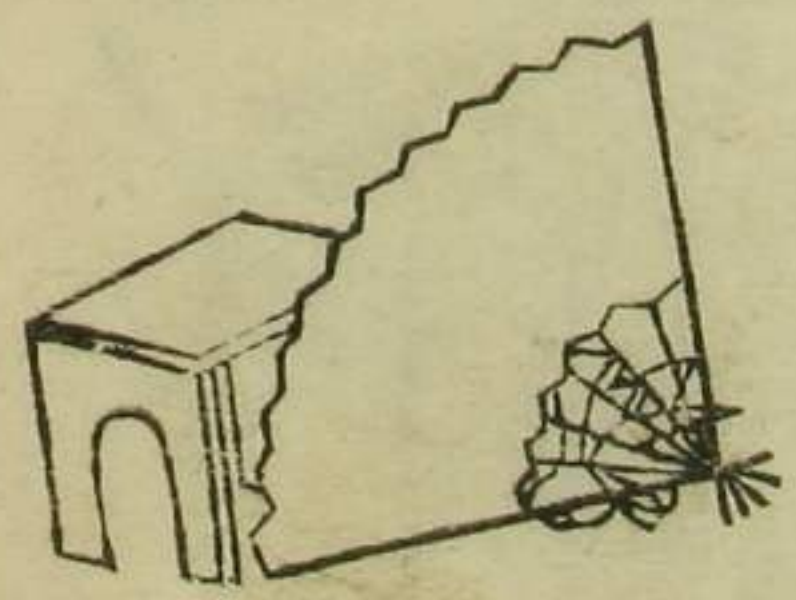
翠峯此洞 四十三頁

石の石より石
石あり



恒洞又 四十五頁

たれ石の石
石あり



月宮殿 四十七頁

基又付て
石あり



戸室漱 四十八頁

あふをれ人を
石をぶらり
石あり



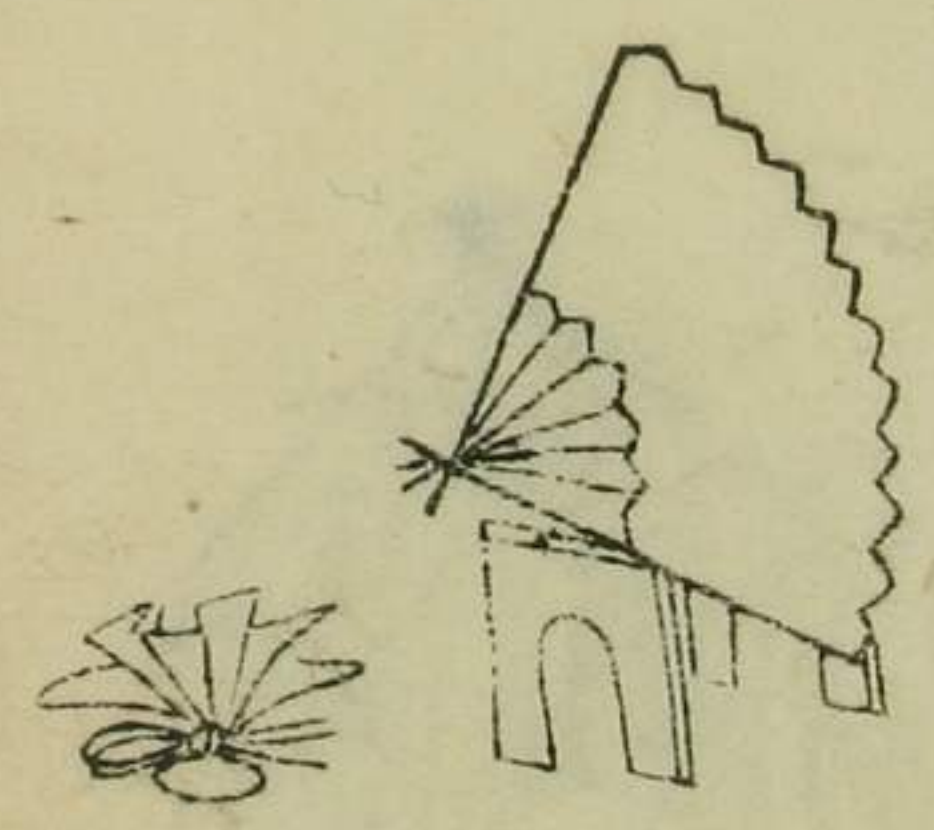
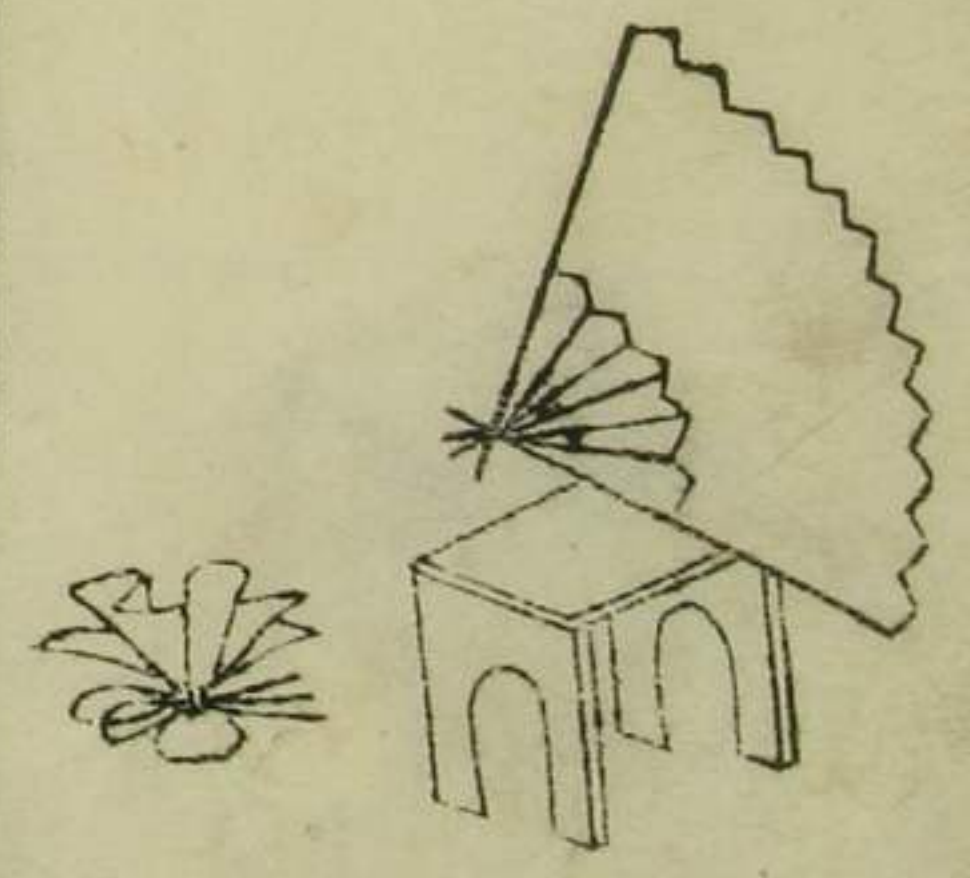
掛扇

かけ扇 四十九点

扇をたぐりて
とまらざるに

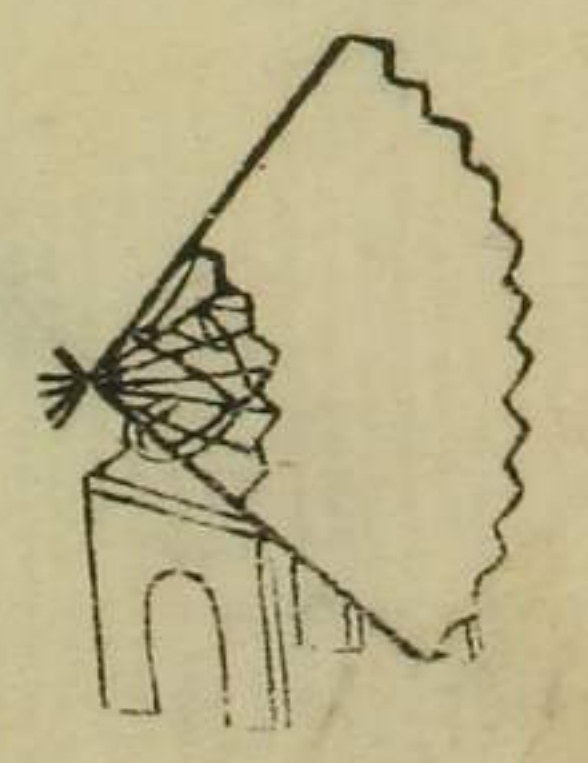
胡蝶 五十点

たぬき
とらて



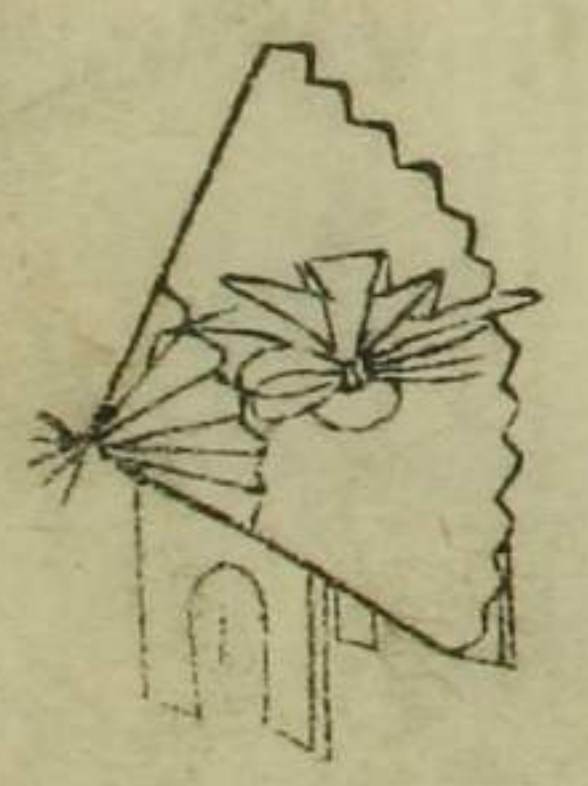
弘羽共 五十五点
一丈の緒とす

花たぐり
のりたる



連舟 五十五点
一丈の緒とす

舟をたぐりて
のりたる



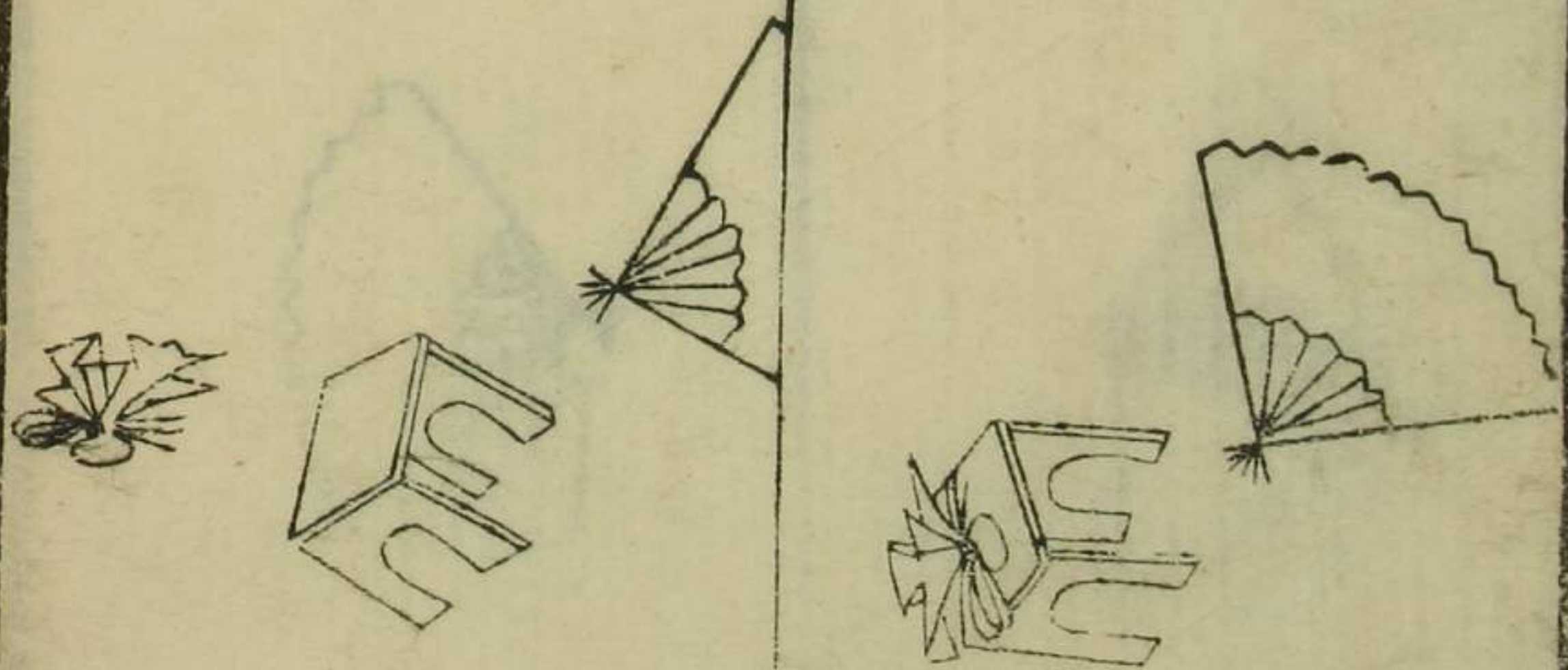
掛扇

木拵こがら 三長引

いれあつてさきさき
例もあつてさきさき
出さるゝ

ふあらし一平の原

それも麻もさき
又さきそれさき



幼

えど先頭あればつづきつづきとも又長とまるとぶ

終り

とつともおれどく又長をますかり

連

二度目より終りまで法でけて廻る時と長乃
外又三長とまるとつ

全頭

尤しゆより終るまでさいさい殿とん野の居い野のありし
外と又また七しち点てんををままととるる一一
毛け續つよりより外とへへ解と目め出でままととババ野の野のとと一一てて野の野の
つらつずずああみみぎぎ出でててもも解と目め續つれれ申ま又またああままととババ野の野の
又また入いるる一一
級き野の野の野のととよりより日ひととままちちりり

文化六年

己巳六月吉日

京都書林 河南四郎兵衛

東都書林 岡田屋嘉七

浪華書林 河内屋嘉七

全書林 播磨屋松之助

